増える企業の農山村研修

五感でムラを知る

水俣「愛林館」沢畑館長に聞く

「異文化交流」自然体で

都会は健全なのかなあと考えた

参加者の感想から

結構興奮している自分に驚いた

さわだ・とおる
1961年生まれ。東京大学教養学部卒。農学修士（林学専攻）

澤田 徹
ホームページ http://www.kanri.net/jp-s-airinkanri/
メールアドレス jp-s-airinkanri@kanri.net

愛林館で森林の役割や現状を学ぶ参加者　＝阿部撮影

熊本市　人吉市　水俣市　熊本県　九州自動車道　鹿児島線　JR　鹿児島本線

愛林館の森林研修メニュー

日付	時間	内容
初日	16：30	講義：森林の成り立ちと公益的な機能
		森林見学
	17：00	・大気山の中で、生態学的な説明
		・音を出さずに5分間観察があり、感想を述べる
	18：30	・夕食：愛林館女性グループによる田舎料理
	20：00	夜の照葉樹林観察
		・星明かり同様、音を出さずに5分間観察がある
		・すっかり夜目が効いた状態で、光を確認
2日目	8：30	講義：日本の森林の現状と課題
	9：00	つる切り作業（林令9年の木曽の森）
	11：00	山村見学：山の神さんにごあいさつ　棚田の石垣見学
	13：00	・林令4年の杉の手植えの苗木で、植林、下草刈り、つる切りの説明
		・宗祈町に伐採した跡へ行き、機械集材の問題点説明
		・佐吉神社の鎮守の森（ほぼ原生林）を見学
		・山の神さまの説明
		・伐採後放置した5年の森を見学
		・現在伐採中の現場で架線集材の説明
	15：00	愛林館で、切り出した木材を、ベンチ、椅子、テーブルの木を使い、煮炊のくん製をつくる
	18：00	夕食（郷土料理鮎炭火でバーベキュー）およびバウムクーヘンの作り体験
3日目	9：00	城山見学：日本一（自称）の棚田見学
		・棚田見学と竹筒の仕組
	10：30	ワークショップ：山村と森林の公益的な機能を支えるには？
		・現在の現実問題を無視してアイデアを出し合う
		・続いて現実的な方策の「決め手」を聞く

全国から来た二泊3日の研修生たちが、目の当たりにした、森林の現状や、山村の暮らしの厳しさ、そして、人の手が入ることで、森が、人間にとって、どんなに大切なものであるかを、五感で感じ、考えた、二泊三日の研修の様子を、参加者の感想を交えて、ルポする。

熊本県人吉市の、愛林館。ここは、森林の成り立ちと公益的な機能の講義から、研修が始まる。

夜の照葉樹林観察。星明かりの下、音を出さずに、5分間、ただ、ひたすら、目を凝らす。すっかり、夜目が効いた状態で、光を確認する。

翌朝、森林の現状と課題の講義。

つる切り作業。林令9年の木曽の森。

山村見学。山の神さんにごあいさつ。棚田の石垣見学。

林令4年の杉の手植えの苗木で、植林、下草刈り、つる切りの説明。

宗祈町に伐採した跡へ行き、機械集材の問題点説明。

佐吉神社の鎮守の森（ほぼ原生林）を見学。

山の神さまの説明。

伐採後放置した5年の森を見学。

現在伐採中の現場で架線集材の説明。

愛林館で、切り出した木材を、ベンチ、椅子、テーブルの木を使い、煮炊のくん製をつくる。

夕食（郷土料理鮎炭火でバーベキュー）およびバウムクーヘンの作り体験。

城山見学：日本一（自称）の棚田見学。

棚田見学と竹筒の仕組。

ワークショップ：山村と森林の公益的な機能を支えるには？

現在の現実問題を無視してアイデアを出し合う。

続いて現実的な方策の「決め手」を聞く。

三木紀子さん　羽田市役所の別所、午後一時だというのに、駅を眺めるようにして、ぽつんと、ひとりぼっちで、ぼーっとしている。

なんでしょうか、人の人、人、人、